

# 『バプテスマの手引き』

～洗礼準備会用テキスト～

*Learning of Baptism*

*Vol. 1*

Start date    20        年        月        日

End date      20        年        月        日

お名前 \_\_\_\_\_

箕面めぐみ聖書教会

(作成者: 山下 亘)

—Program—

第一章

私たちの信仰の内容(同盟教団の信仰告白から)

1. 『信仰告白について』
2. 『聖書について』
3. 『神について』
4. 『父なる神について』
5. 『人間・罪について』
6. 『イエス・キリストについて』
7. 『聖霊について』
8. 『教会について』
9. 『終わりの時(終末論)について』

第二章:

バプテスマ(洗礼)について

1. 『バプテスマの意味』
2. 『バプテスマの重要性』

第三章:クリスチャンの歩みについて

1. 日々の信仰生活
2. 教会生活

第四章:洗礼の「証し」の準備について

1. 「証し」を書くにあたって
2. 「証し」の内容について

第五章:洗礼の手続きに関して

## 第一章:私たちの信仰の内容(同盟教団の信仰告白から)

### 1.『信仰告白について』

第1条 本教団は、聖書の啓示するイエス・キリストを主とする公同教会の一員であり、聖書信仰に立って次の信仰を告白する。

「我らは、聖書において啓示され、使徒信条をはじめとする公同の信条を言い表し、宗教改革において鮮明にされた信仰にもとづいて、次のように信じ、告白する。

①「公同教会」とは、教会のかしらである( )のもとに集められた群れのことです。それは、場所や民族を超えて、また、歴史と世界を包含して存在している一つのキリストの( )を指しています。

②「信仰告白」とは、「私たちは、何を、どう信じているのか。」ということをもとめたものです。信仰告白の基礎となるのは、イエスさまが( )との問いに、ペテロが(「 )」(マタイ16:16)と告白したように、イエス・キリストに対する自分の信仰を明確な言葉をもって言い表すことです。

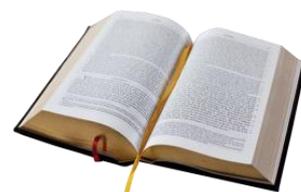
③教会の歴史の中では多くの信仰告白がなされてきました。最も古いものは( )です。正しい聖書の教えを告白することは、教会の中に( )考えが入り込んでくるのを防ぐことでもありました。今日も、様々な異端の教えや自由主義神学の影響が私たちの周りにあります。

### 2.『聖書について』

旧、新約聖書六六巻は、すべて神の靈感によって記された誤りのない神のことばであって、神の救いのご計画の全体を啓示し、救い主イエス・キリストを顕し、救いの道を教え、信仰と生活の唯一絶対の規範である。

1)私たちの信仰の基準は、あくまで( )です。( )という巻数は、プロテスタントの教会にとって極めて重要です。ちなみに、カトリック教会は、旧約外典一二冊を加えて、全部で七三巻を正典としています。外典を正典としないことには複数の理由があります。

・旧約聖書は三九巻、新約聖書は二七巻です。



2)「聖書」は、すべて神の( )によって記された誤りのない神のことばです(Ⅱテモテ3:16)。「靈感」とは、「神の息によるもの」という意味があります。すなわち、聖霊が( )たちの上に臨み、神ご自身の御旨、ご計画を表したものです(Ⅱペテロ1:20-21)。

3)聖書は、誤りのない神の( )である(聖書の無誤性)とは、救いや教理の面だけでなく、歴史や出来事のすべての事がらを指します。また、聖書は、クリスチャンの( )と( )の唯一絶対の規範です。聖書以外に( )の道が記されている書はほかにありません。

### 3.『神について』

神は霊であり、唯一全能の主である。神は永遠に父と子と聖霊の三位一体であって、その本質において同一であり、力と栄光とを等しくする。

1)「神は霊である」とは、まずいかなる神の( )も造ってはならず、これを礼拝してはならないということです(出エジプト20:4)。また、神を礼拝する者は、( )と( )によって礼拝しなければなりません(ヨハネ4:24)。

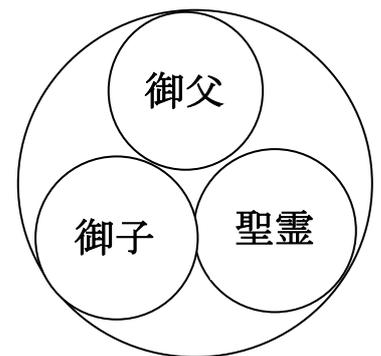
2)「神は唯一」とは、「主は私たちの神。主はただ( )である。」(申命記6:4)ということです。また、「全能」とは、何でもできるという意味以上に、無限、永遠、不変という神の固有の(本性)が読み取れます。また、能力だけでなく、知識、愛、義、聖などの道徳的なすべての属性においても(完全)であるという意味を汲み取ることができるのです。

3)「神は永遠に父と子と聖霊の( )である。」とは、( )や( )に等差はなく、平等、等位であるということです。三位一体の教理は、聖書信仰の独自性を表し、正統的キリスト教と( )とを区別する大切な要素です。他宗教にはない、人間の理解を超えた奥義です。

•神は唯一であると同時に、  
父、御子、御霊の三つの位格をもたれる。

•三つの位格は、同等であり、同一の属性(本質)をもち、  
等しくあがめられ、礼拝と信仰の対象となるにふさわしい。

「わたしと父はひとつです。」(ヨハネ10:30、14:9)



神 (God)

#### 4. 『父なる神について』

神は、永遠の御旨により万物を創造し、造られたものを摂理によって統べ治める絶対主権者である。

1) 神の御旨とは、神の( )や( )を表します。神は、世界の基の置かれる前から(エペソ 1:4)ご計画を立てられ、それを、万物の創造と摂理の働きをもって実行に移されました。

2) 父なる神は、( )によって、無から万物を創造されました(ヘブル1:2、3)。創世記1章は全能の神が御力をもって( )を創造し、二章は神が整えられた世界に( )を創造し、神の創造のみわざにみられる御力、計画性、恵みを明らかにしています。

3) 神は、創造された万物を何事によらず起こってくるすべてのことを細大もらさず、緻密な( )の内に支配なさいます。摂理とは、神の計画的支配( )のことです。自然の営みも、人間の歴史も教会の営みもすべて偶然や不確定はなく、神の( )の中にあるのです(ローマ8:28)。

#### 5. 『人間・罪について』

はじめに人は、神のかたちで創造され、神と正しい関係にあった。しかしサタンに誘惑され、神の戒めに背いて罪を犯し、神のかたちを毀損した。それゆえ、すべての人は生まれながら罪と悲惨、死の支配のもとにあり、思いと言葉と行為とにおいて罪ある者である。自分の努力によっては神に立ち返ることができず、永遠の滅びに至る。

①神が人間を創造されたとき、人間は( )に似せて造られました(創世記1:26)。「神のかたち」とは、肉体を指すのではなく、神のご性質( )をもつ人格的な存在であるということです。

②神に似せて造られた人間は、( )を持つ者となりました。それゆえ、人間は自ら考え、判断し、行動するという、主体性がありました。ところが、人間は神の意志に反するという、主体的な決断を下すことによって、( )を犯したのです(ローマ3:23)。

・神はエデンに、「食べるのに良いすべての木」、「いのちの木」そして、「善悪の知識の木」を生えさせました(創世記2:9)。



3) 罪を犯してしまった人間は、その時以来、神に似せられたかたちを( )してしまいました。それゆえ人間の知性は暗くなり、神との正しい( )を失った人間は、真の神がわからなくなり、無知と頑なさによって、神から遠く離れる結果になったのです。

4) 「罪」(的外れ)には、本性の腐敗( )とそれから出てくる( )の二つの面があります。この罪の結果、すべての人が思いとことばと行為において、罪ある者となり、神との交わりを喪失し、生まれながらの( )、また、サタンの奴隷となってしまったのです(エペソ2:3)。

5) 人間の本姓は、全く( )に傾いているため、どんなに努力して神を求めても、自力で神を知ることにはできず、どんなに善行を積んだとしても、神の御心を満足させることはできません。それゆえ人間は、永遠に神の前から失われ、滅びに定められたものとなったのです。この罪から来る報酬は、「死」( )、( )、( )であると、聖書は告げています。

## 6. 『イエス・キリストについて』

主イエス・キリストは、父なる神のひとり子であって、聖霊によって宿り、処女マリアより生まれたまことの神にしてまことの人である。主は、我らに代わって十字架にかかり、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死者の中からよみがえり、我らのために贖いを成し遂げ、我らに永遠のいのちを与えた。主は、天に昇り、父なる神の右の座に着き、大祭司として今も我らのために執り成している。

1) イエス・キリストは、旧約聖書に預言された、私たちの罪からの( )です。「キリスト」とは、メシア(油注がれた者＝神に特別に選ばれた者)という意味です。旧約聖書には、メシアについての預言が300以上あると言われています。

2) イエス・キリストは、神を父とする「ひとり子」としての( )を有しておられます。イエスさまを単に神の子と言わず、神のひとり子と呼ぶのは、イエスさまと父なる神との関係が独特なものであることを表します。父なる神は、ひとり子なるイエスさまに一切の( )を委ねられました。

3) イエス・キリストは、「聖霊によって宿り、処女マリアより生まれ」とあるように、まことの( )にしてまことの( )である方です(二性一人格)。それは、イエスさまが私たちとは違って、罪のない方として生まれたこと、そして、罪以外はすべて私たちと同じ肉体をとって来られたことを表しています(ヘブル4:15、ピリピ2:7—8)



4) イエス・キリストは、私たちの罪の身代わりとなって( )にかかり、死んでくださいました。それは、私たちを贖うため、ご自身をいけにえとして献げ、( )を完成してくださったのです。しかし、この方は三日目に死から( )、永遠のいのちの道を開かれたのです。

5) イエス・キリストは、永遠に存在されるので、変わることがない( )を持っておられます。したがってイエスさまは、いつも生きておられ、私たちのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を( )に救うことができになるのです(ヘブル7:24—25)。

## 7. 『聖霊について』

聖霊は、我らに父と子を示し、罪を認めさせ、赦しを与え、我らを新たに生まれさせ、神の子とする。人は、自分の行いによらず神の恵みにより、主イエス・キリストの贖いのゆえに、キリストを信じるただその信仰によって義と認められる。さらに、聖霊は、助け主、慰め主として我らの中に住み、我らを主と同じかたちに造りかえ、我らに御旨を行わせ、世の終わりまで我らとともにあり、我らをキリストとの共同相続人とする。

1) 聖霊は、目に見えず、無形ですが、知識、感情、意思を持つ( )な存在です。そして、聖霊は、人間の知恵では知ることのできない父と子に関する知識を( )、イエスさまが話したすべてのことを( )くださるのです(ヨハネ14:26)。

2) 聖霊は、( )と呼ばれ、クリスチャンをすべての真理に導かれます(ヨハネ16:13)。また、自らの罪のために盲目となっている、私たち人間の目を開き、( )を示し、自らの不義を語らせ、救い主イエス・キリストの必要を教える方です。

3) 聖霊は、キリストを信じる私たちを( )生まれさせ、(ヨハネ3:1—8、テトス3:5)、私たちの( )に住んでくださいます。そして、私たちの内におられる聖霊の働きによって、私たちは聖められ、日々新しくされていくのです。

4) 聖霊は、( )として、私たちいつもともにいてくださいます(ヨハネ14:16)。また、助け主は、御言葉を通して、私たちを励まし、慰め、救いを完成させ、必ず( )に迎え入れてくださるのです(エペソ1:14)。

天の御国



## 8.『教会について』

教会は、聖霊によって召し出された神の民、主イエス・キリストをかしらとするからだであり、羊飼いなる主の御声にのみ聴き従う羊の群れである。地上の教会は、再び来られる主を待ち望みつつ礼拝し、みことばを説教し、聖礼典を執行し、戒規を重んじ、聖霊の力によって全世界に福音を宣べ伝える。

- 1) 教会は、神から召し出された者の( )です。神は今も多くの人々を召して、キリストの教会を建て、( )によって教会に生命を与えておられます(Iコリント3:16、エペソ2:22)。
- 2) 教会は、キリストをかしらとする( )であり(Iコリント12:27)、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会です(使徒の働き20:28)。私たちはみな、神の家族です(エペソ2:19)。
- 3) キリストは、教会に神の( )の宣教と( ) (洗礼と聖餐)とを与えられました(ヨハネ5:39、Iテサロニケ2:13、使徒20:32)。また、教会の活動のすべての源が( )であるならば、このために正しい秩序が必要であり、そのための教会制度が重んじられるべきです。

## 9.『終わりの時(終末論)について』

終わりの時に、主イエス・キリストはみからだをもって再臨し、生ける者と死せる者とを審判する。主は我らをからだをもってよみがえらせ、我らをご自身の栄光と同じ姿に造り変え、万物を新たにし、神の国を完成する。アーメン。」

- 1) 「終わりの時」に、栄光に輝くキリストがみからだをもって( )されます。但し「その日その時」は、父なる神だけがご存知であり、私たち人間には隠されています(マタイ24:36)。
- 2) キリストが初めて来られたのは、世の救い主としてですが、再び来られる時は( )として来られます。御子を信じる者は( )を持ちますが、御子を持たない者はいのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまるのです(ヨハネ3:36)。
- 3) キリストの再臨の時に、私たちキリスト者は、からだをもってよみがえり、それから終わりが来ます(Iコリント15:24)。「終わりの日」とは、すべてが( )する日、最後の敵が征服され、王国がもたらされ、神の救いの御業の全課程が満たされ、キリスト者の救いが( )される日です。

## 第二章:バプテスマ(洗礼)について

### 1. 『バプテスマの意味』

#### 1) 「古い人」の死

バプテスマは、神の前に罪人である人間が、キリストの( )とともに滅ぼされ、葬られることを象徴します。これは肉体的な死ではなく、神に反抗してきた罪の奴隷、自己中心の姿「古い人」の死を意味しています(ローマ6:6)。

#### 2) 「新しい人」としての生

バプテスマは、キリストが死者の中から( )ように、新しいいのちを与えられた自分がキリストとともによみがえったことを象徴します。これは表面的なことではなく、私たちの魂の内に起こった霊の出来事を意味しています(ローマ6:4、Ⅱコリント5:17)。

#### 3) 新しい出発

キリストにある新しい自分にされた者は、神に喜ばれる生き方をしたいと自らを献げ、自分のために死んでよみがえったくださった方を( )する生涯を歩み始めるのです(ローマ6:12-13)。

### 2. 『バプテスマの重要性』

#### 1) イエス・キリストの定められたもの

イエスさまは、公生涯を始められる際、まずバプテスマのヨハネから( )を受け、自ら模範を示されました(マタイ3:13-15)。そして、復活の主は、弟子たちを集めて、ご自分を信じる者に、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授けるように命じられたのです(マタイ28:19-20)。

#### 2) イエス・キリストの救いを確信する

バプテスマ(洗礼)を受けることは、神と教会の前で、私たちの( )を公にすることであり、私たちがイエスさまの十字架の贖いによって、罪から( )を確認する時です(マルコ16:16)。その時、私たちは賜物として( )を受けるのです(使徒の働き2:38)。

#### 3) 地域教会の一員となる

バプテスマ(洗礼)を受けることは、天の御国を受け継ぐ者の証しであり、地上では教会の正式なメンバー( )となることです(ピリピ3:20)。

まとめ:



### 第三章:クリスチャンの歩みについて

イエスさまを救い主と信じた人の心には、聖霊がともに住んでくださいます。聖霊は助け主として、私たちがみことばに従って生きることができるように助け、慰め、励ましてくださるのです。

#### 1. 日々の信仰生活

##### 1) 聖書を読む(Ⅱテモテ3:15—16)

神のことばである聖書は、私たちの心の( )です。日々御心にかなった歩みができるように、祈りつつ、静まって、神の語りかけを求めながら読みましょう。

##### 2) 神に祈る(Ⅰテサロニケ5:17)

祈りは、( )です。朝起きて、夜休むまで、いつでもどこでもどんなことでも祈りましょう。イエスさまも絶えず祈られました。祈りの生活こそ、信仰生活の勝利の秘訣です。

##### 3) クリスチャンと交わる(使徒の働き2:42)

交わりは、神の恵みを( )ことです。薪は一本だけではすぐに消えてしまいますが、何本も一緒にすればよく燃えます。信仰生活も同じ。信仰の友と主にある交わりを持ちましょう。

##### 4) 生活とことばで証しをする(マルコ5:19、ヨハネ4:39)

証しは、クリスチャンとしての( )を、生活とことばを通して、ほかの人々に伝えることです。イエスさまが自分にどんなにすばらしいことをしてくださったのかを大胆に表していきましょう。

#### 2. 教会生活

##### 1) 主日礼拝を献げる(ローマ12:1—2)

主日( )礼拝は、教会生活の最も中心的なものです。礼拝は、クリスチャンの特権であり、神による( )と、罪からの( )を覚える時でもあります。自分の最善を尽くして礼拝を献げましょう。ほかにも、教会の諸集会( )にも積極的に参加しましょう。

##### 2) 奉仕を通して教会を建て上げる(エペソ4:11—12)

神は、教会を建て上げるために、私たち一人一人に( )を与えておられます。一人一人がキリストのからだの一部分として、どんな奉仕でも自発的に行いましょう。

##### 3) 献金の祝福(Ⅱコリント9:6—7)

「献金」は、神の恵みに対する( )と( )の現れです。旧約聖書には、十分の一を神に献げる律法があり、守られてきました。新約の時代に生きる私たちも心からの感謝を献げましょう。

## 第四章:洗礼の「証し」の準備について

洗礼の「証し」は、神が自分に何をしてくださったかを神と人々の前で公に伝えることです。文章が上手でなくても、短くても、問題ありません。大切なのは、率直に事実と自分の思いを書くことです

### 1. 「証し」を書くにあたって

- 必要な知恵を与えてくださるようによく祈る
- 少なくとも一つの聖句を用いる
- 何回も書き直して、最後の文章にまとめる。
- 他の模範的な「証し」を参考にする。
- 説教ではありません。自分の体験を書きましょう。

### 2. 「証し」の内容について

#### 1) キリストを知る(信じる)前の生活(入信前)

キリストを知る(信じる)前の生活はどのようなだったか。抱えていた問題や悩み、なぜ決心できなかったのか…など、書ける範囲で書いてみてください。

#### 2) キリストをどのように知ったのか(入信直後)

いつ、どこで、どんなタイミングで、イエスさまを信じたのか。どんなきっかけで信じたのか、どうして信じることにしたのか…など、できるだけ具体的に書いてください。

#### 3) キリストを受け入れた後の生活(入信後)

イエスさまを信じてから、あるいは受洗を決心してから、あなたの人生や生き方、心はどのように変わってきましたか。また、どのような信仰生活を送りたいと思いますか。

## 第五章:洗礼の手続きに関して

学びを終えられた方は、次の手順でバプテスマ(洗礼式)の手続きを行ってください。

- ①まず牧師に相談する(洗礼準備会を行う)
- ②「バプテスマ志願書」を役員会に提出する
- ③役員会で審議、洗礼諮問会を行う
- ④証しを準備する(短くても構いません)
- ⑤洗礼式の日程を決める

バプテスマ志願書

日本同盟  
基督教団 \_\_\_\_\_ 教会 御中 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 姓 \_\_\_\_\_ 苗 \_\_\_\_\_ 姓 \_\_\_\_\_ 四 \_\_\_\_\_

この度、バプテスマを受け御教会に加入させていただきたく志願いたします。

氏名	姓 _____	苗 _____	姓 _____	四 _____
生年月日	年 _____	月 _____	日 _____	
住 所	〒 _____ 番 _____ 号 _____			
電 話	_____			
本 籍	_____			
配偶者氏名 または 両親の氏名	夫 _____	妻 _____	母 _____	父 _____
洗礼主自身 とその配偶	洗礼主 _____	配偶 _____		
家の宗教	宗 _____	派 _____		
職業又は 学歴等	名 _____	姓 _____		
バプテスマ の誓約	宗 _____	派 _____		
誓約 の期	年 _____	月 _____	日 _____	
志願書提出 の期	年 _____	月 _____	日 _____	
洗礼式 の期	年 _____	月 _____	日 _____	
備 考	_____			